

# 学校教育部長目標（令和8年度組織目標）

● 学校教育部長 吉川 誠（よしかわ まこと）



● 業務をもって貢献しているSDGsの主なゴール

- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう



● 学校教育部の仕事

学校教育部は、学校教育課、保健給食課、教育センターの3課で構成されています。学校教育課では、市立の小・中学校の教育内容の指導、県費負担教職員・市費負担の支援員等の人事事務、就学事務などを担当し、保健給食課では、2つの学校給食センターへの指導をはじめ、学校保健、学校給食、食育などを担当しています。また、教育センターでは、学校教育に係る調査研究、教職員の研修、教育相談などを担当しています。

● 学校教育部の目標

教育委員会では、令和6年度からスタートした「第3次所沢市教育振興基本計画」に基づき、各事業を着実に進めます。学校教育部では、本計画の10の目標のうち、令和8年度は、確かな学力の育成、豊かな心の育成、未来を生きる力の育成をねらいとした以下の事業を重点事業と位置づけ、子どもたちの笑顔があふれる学校となるよう、学校・教育委員会が一丸となって取り組みます。

● 目標達成に向けた重点事業

No.	事業項目	事業の概要	事業の目標	事業の達成実績
1	トコロん学力向上プロジェクト事業	令和8年度は、市内3校を特別指定研究校とし、「非認知能力の育成」「話す力の向上」「探究的な学習の充実」に視点を置き、客観的根拠を参考としながら研究を進めます。また、特別指定研究校以外の小・中学校は基礎研究校（全校3年間でローテーション）として、各校の学力向上の視点により研究を進めます。	子どもたちの学力向上を目的とし、「認知能力の向上」、「非認知能力の育成」、「言語活動の充実」を重点事項に掲げ、取組を進めます。令和8年度は、これまでの取組を継続しながら、「子どもたちは、誰もができるようにになりたいと願っている」という『能動的な学習者としての子ども観』に立った教育をより推進します。	
2	「トコロんのびのび塾」算数基礎学力向上プロジェクト事業	市内在住の小学校3年生から6年生の児童を対象に、「数と計算」領域を中心に算数の学力向上を図ります。令和8年度においても、市内小学校、まちづくりセンター等の11会場で実施します。	地域の教育力を活用した学習の機会を設けることで、子どもたちの算数の基礎学力及び学習意欲の向上を図り、中1ギャップ解消の一助とするものです。	
3	いじめ未然防止対策事業	令和8年度は、小・中学校3校の委嘱校を選定し、いじめを防止するための授業及び児童生徒が主体的にいじめを未然に防ぐために取り組む活動、調査ツールの活用、等を実践します。	子どもたちが、いじめ問題を含むトラブルを自分たちで解消する力を身に付け、いじめを生まない学校風土を醸成し、いじめの未然防止に取り組みます。今まで積み重ねてきた知見や研究協力校での実践をもとにプログラムを構築し、いじめの未然防止を推進します。	
4	外国語教育推進プラン拡大事業	「世界へ羽ばたく子どもを育てる所沢市外国語教育推進プラン（TEA-Plan2）」の事業拡大を推進し、児童生徒の英語力の向上や、英語を使ったコミュニケーションにおいて、自身の思いや考えを正しく伝える力を伸ばします。	・Reading、Listeningの2技能（読む、聞く）について公益財団法人日本英語検定協会のテスト（英検IBA）を各中学校で実施します。生徒の主体的な学びを伸ばし、効果測定のエビデンスに基づいた授業改善を行うことで、英語力の向上を図ります。 ・英語指導助手とともに、英語を用いた体験活動に取り組むTOKOROZAWA English Summer Campや世界に視野を広げるワークショップを開催し、児童生徒が英語に触れる機会を充実させます。	